

釧路市春採湖における カメ類の確認

※¹照井滋晴・前田潤

日本には2科5種2亜種の淡水産カメ類が自然分布している。しかし、北海道においては1種も自然分布していない。筆者らは釧路市の市街地に位置する春採湖において2008年から2012年の間に2種5個体のカメ類を捕獲したため、以下に報告する。

カメ類は、釧路市に位置する国の天然記念物「春採湖ヒブナ生息地」に指定されている春採湖（北緯42度58分、東経144度23分）（図1）の湖内において、特定外来生物ウチダザリガニの捕獲を行った際に混獲された。捕獲されたカメ類はクサガメ*Chinemys reevesii*、ミシシッピアカミミガメ*Trachemys scripta elegans*の2種である（図2、図3）。各個体の捕獲日は以下のとおりである。

- 2008年6月29日 クサガメ
- 2008年9月21日 ミシシッピアカミミガメ
- 2009年8月6日 クサガメ（♂）
- 2009年10月8日 クサガメ（♂）
- 2012年9月22日 ミシシッピアカミミガメ

クサガメは、2008年1個体、2009年2個体の計3個体が捕獲された。各個体の外部計測や雌雄の判定等は実施していないが、捕獲個体のうち2個体は全身が黒化し、斑紋が消失していたことから成体雄であると判断した。ミシシッピアカミミガメは、2008年9月に1個体、2012年9月に1個体の計2個体が捕獲された。各個体の

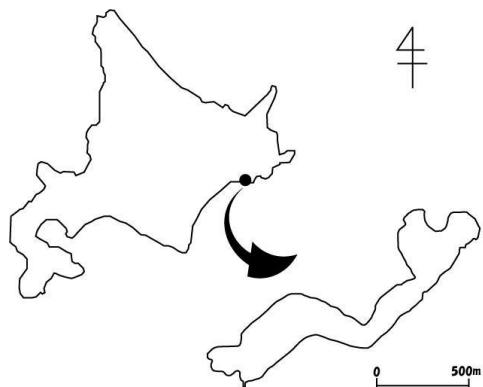


図1. 調査地(春採湖)



図2. 2009年8月に捕獲されたクサガメ（♂）



図3. 2012年9月に捕獲されたミシシッピアカミミガメ

外部計測や雌雄の判別は実施していない。

春採湖にカメ類が侵入した原因は、ペットとして飼育されていた個体の遺棄である可能性が高いと考えられる。しかし、春採湖においては

2008年以降継続的にカメ類が捕獲されていることから、全てがその年の遺棄個体ではなく、野外で越冬及び繁殖している可能性も示唆される。越冬については、クサガメ、ミシシッピアカミミガメとともに冬期に凍結しない湖の水底を利用していると考えられるが定かではない。また、野外での繁殖の有無についても、捕獲個体数が少ないと幼体が捕獲されていないことから断定することはできない。もしも、春採湖において越冬及び繁殖している場合、春採

湖に生息する希少魚類であるヒブナやその他の水生動植物に対する悪影響が懸念される。特にミシシッピアカミミガメは国際自然保護連盟によって2000年に「世界の侵略的外来種ワースト100」に、日本生態学会によって「日本の侵略的外来種ワースト100」に選ばれている種であるため、注意が必要であると考えられる。

(※1 085-0816 北海道銚路市貝塚 NPO法人環境把握推進ネットワークPEG)

カラスはヒキガエルの天敵になりえるか??

斎藤和範

本州において、ヒキガエル類を捕食する天敵としてヤマカガシ、ヒバカリ、イモリなどが記録されているが(浦野・石原1987)、北海道においては、これらの動物が生息していないため、移入した地域においては、天敵不在によって爆発的に個体数が増加している。ヒキガエルの増加は、被捕食者となる移動能力の弱い動物にとって、生存における大きな脅威となる。そのためヒキガエルは、小動物や地表に生息する昆虫(特にオサムシなど地表性の甲虫やアリ)、ミミズ、クモなどを捕食し、その放逐や拡散は、ヒキガエルが元々生息していない地域の生態系に非常に大きな影響を及ぼす。今回、北海道で唯一天敵となりそうな、捕食行動を目撃したのでここに報告する。

北海道におけるヒキガエルの発見は、函館市谷地頭には1910年(明治43年)に函館市の函館山山麓、函館高等女学校(現:北海道函館西高等学校)の裏藪で、ヒキガエル(*Bufo japonicus*)が生息しているのが初めて確認された(八田、1912)。

その後、岡田(1930)では、このカエルをアズマヒキガエル(*Bufo japonicus formosus*)とは別亜種のエゾヒキガエル(*Bufo vulgaris hokaidoensis*)としたが、その後Matsui(1984)による形態計量解析に基づき、アズマヒキガエルと同じとされ、亜種エゾヒキガエルはシノニムとして抹消された。このため函館に生息するヒキガエルは、エゾヒキガエルではなく、国内外来種のアズマヒキガエルである。谷地頭付近では、函館ロータリークラブによって古い名称による「エゾヒキガエル カエルに注意！」の看板が設置され(函館ロータリークラブ、2003)、国内外来種への誤った普及啓発や注意喚起となっている(図1)。この問題については函館市周辺のアズマヒキガエルの分布と共に、別の論文で報告したい。

函館山山麓周辺では、谷地頭付近などに数カ所のヒキガエルの産卵池があり、毎年4月末から5月初めの大型連休頃にそれらの